

23PO-am004

Mafcheenamine A 及び E の全合成研究

○稗田 雄三¹, 町支 臣成², 藤岡 晴人² (¹福山大学共同利用センター, ²福山大薬)

【目的】 Mafcheenamine A 及び E は、Laphookhieo らによって *clausena lansium* から単離された天然物で、生理活性として抗腫瘍活性を有することが報告されている。今回、アレン中間体を経由する電子環状反応を用いて mafcheenamine A 及び E の全合成研究を行なった。【方法・結果】 プロパルギルアルコール誘導体 **1a**, **1b** から 2 級アルコールのメチル化を行なったところ、プロパルギルメチルエーテル **2a**, **2b** は得られず、一挙に反応が進行した多置換カルバゾール **4a**, **4b** が得られた。続いて、得られたカルバゾール **4a** を不斉ジオール化に付すことで mafcheenamine A を得た。また、カルバゾール **4b** の 3 位を酸化しホルミル基とした後、グリニャール反応に付すことで mafcheenamine E の全合成を達成した経緯を述べる。

